

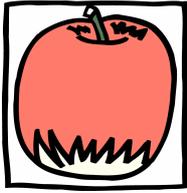
野菜の作業 入梅の時期になり病害の発生が増加します。

早めの敷薬や予防防除の徹底で病害の発生を未然に防ぎましょう！

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント												
<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・チンゲンサイ ・ダイコン ・カブ ・スイートコーン ・葉ねぎ ・白うり など 	<ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモ ・青シソ ・ニラ など 	<p>【タマネギの収穫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨時だが晴天時を選び計画的に収穫を行う ・収穫適期は全体の80%が倒れた頃 ・収穫遅れになるほど貯蔵性は悪い  <p>収穫後は1束10球ずつ結束して乾燥</p> <p>タマネギは収穫後40～50日経つと自然休眠からさめ、60日以降から芽を出し始める。萌芽の抑制には1℃前後の低温貯蔵が望ましい。 (昔使用した芽止剤は農薬登録上使用できないので注意！)</p>												
	<p style="text-align: center;">収 穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タマネギ ・ニンニク ・シュンギク ・ピーマン ・キュウリ ・ニラ など 													
<p>【ネギの栽培管理】</p> <p>1) 土寄せ 茎を白くし品質や収量を向上させます。定植後30日後から除草を兼ねて行いましょう！</p> <p>2) 追肥 土寄せとあわせ行います。1回に1a当り追肥化成(わかみどり)を2kg散布して下さい。収穫までに4回程行います。</p> <p>3) さび病の予防 ネギのさび病は、比較的湿度が低くなる梅雨の頃と秋雨の頃に多く発生します。カビにより発生する病気なので、肥料の過不足を防ぎ健全なネギを育てるとともに薬剤の予防散布の徹底で被害を防ぎましょう！</p> <p>《ネギのさび病防除薬剤》</p> <p>① ジネブ水和剤の400倍 …予防剤（発生前に散布）</p> <p>② バイト水和剤5の400倍 …治療効果あり（発生初期に）</p>	<p>【トマト・ナスのホルモン剤による着果安定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨は気温も下がり着果が悪くなりがちですが、ホルモン剤の使用により着果が安定し、肥大も良くなり熟期も促進されます。  <p>トマトトーンの使用について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物</th> <th>使用目的</th> <th>希釈倍数</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">トマト</td> <td rowspan="2">着果増進 肥大促進</td> <td>20℃以下50倍</td> <td rowspan="2">1果房の3～5花が開花した頃に1回</td> </tr> <tr> <td>20℃以上100倍</td> </tr> <tr> <td>ナス</td> <td>熟期促進</td> <td>温度に関係なく50倍</td> <td>開花当日 1花につき1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>使用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマトではジベレリン液剤を10ppmで加用すると空洞果が減少する ・花房を手でつまみ水溶液が芽や幼葉に掛からぬように噴霧する ・噴霧量はごく少量で花房または花が濡れる程度とする ・気温が高い時間帯（午前10時～午後3時頃）の作業は避ける ・2度掛けは変形果が増加するので行わない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ジベレリン液剤 10 ppm の作成方法 ジベレリン液剤をトマトトーン溶液 1 リットルに 2 ミリリットル加用する</p> </div>	作物	使用目的	希釈倍数	使用回数	トマト	着果増進 肥大促進	20℃以下50倍	1果房の3～5花が開花した頃に1回	20℃以上100倍	ナス	熟期促進	温度に関係なく50倍	開花当日 1花につき1回
作物	使用目的	希釈倍数	使用回数											
トマト	着果増進 肥大促進	20℃以下50倍	1果房の3～5花が開花した頃に1回											
		20℃以上100倍												
ナス	熟期促進	温度に関係なく50倍	開花当日 1花につき1回											

果樹の作業

4月24～25日に掛けて凍霜害がありました。指導機関の指導に従い、適切な管理を行い、収量の確保及び品質の向上を図りましょう！



【リンゴの管理】リンゴの仕上げ摘果

着果状況を見ながら満開60日頃までに行います。

凍霜害を受け生育が良くない果実や、「さび」が見られる果実は取り除き適正な着果量を確保しましょう。

【リンゴの品種別適正着果量について】

主 な 品 種	適正な着果量
つがる・シナノスイート・紅玉・ジョナゴールド・王林	3～4頂芽に1果
秋映・シナノゴールド	4頂芽に1果
ふじ・千秋・陽光・さんさ	4～5頂芽に1果

※) 1頂芽は健全な葉15枚程度とします。

※) 日当たりの良い樹の外周部は多めに、日当たりが悪い内部は少なめにします。

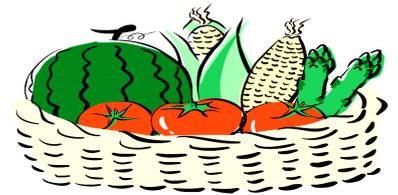
また樹齢・樹勢も考慮し着果を調整して下さい。

プルーンの摘果

満開後50～60日で本摘果を行います。収穫期を考慮し果実がふれあわない程度の間隔にします。残す果実の目安は「緑色の濃い縦長で大きな果実」です。

質問コーナー

直売センター用になるべく農薬に頼らない野菜を作りたいのですが・・・そのポイントを教えてください



直売センターの野菜栽培講習会でもお話をしましたが、計画的な土づくりや輪作・接木や抵抗性品種の導入、適正施肥・適期管理が基本です。

その他に、資材の利用も効果的です。下記を参考に病虫害防除を行って下さい。

防虫ネット：ネットにより物理的に害虫の侵入を防ぎます。（害虫の大きさにより下記の表を参考に）

ネットの目合い(mm)	進入を防止できる害虫の種類	ネットの目合いを考慮すると0.8mm以下のネットを被覆できれば、多くの害虫の侵入を防止できる
5.0	シロイチモンジヨトウ・ウワバ類	
4.0	ヨトウムシ・タバコガ	
2.0	アワノメイガ・ウリノメイガ	
1.0	コナガ・アブラムシ・ナモグリバエ	
0.9	スリップス類	
0.8	ハモグリバエ・キスジノミハムシ	

防虫ネットはJAグリーンファームまるこ店で扱っています。

マルチや敷藁：梅雨の時期になりますので、降雨時の土の跳ね上りを防ぎ、べと病・つる枯病等の病害の発生を軽減します。まだ敷藁を行っていない方は是非対策をして下さい。

また、銀色のマルチは有翅アブラムシの飛来を軽減させます。夏から初秋に掛けての種まきでは、まだ野菜が小さいうちにアブラムシの被害に遭いウイルス病が増加しますので夏まきには是非活用下さい。加えてマルチは雑草も抑制します。⇒雑草は病虫害の住処にもなりますのでマルチの活用とともにこまめな除草を心がけましょう！

【以上、技術事項についての作成協力】

上小農業改良普及センター（担当：白石主任 電話 25-7157）